

ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐための手引き

2013. 12. 14

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

1. ヒロシマ・ナガサキを語り、受け継ごう

(1) 職場や学校や地域など身近なところで被爆者の証言に耳を傾け、語り合う場をつくりましょう

全国ほとんどの県に被爆者の会があります。最初に被爆者の会と聞き取りの目的や進め方などについて相談しましょう。被爆者の負担にならないよう交通費など配慮してください。

(2) 被爆者からの「聞き取り」は被爆者と聞き手の共同作業

「聞き取り」は、①1～3人で被爆者のお宅を訪問する、②数人のグループで被爆者のお話を聞く場を設ける、などの方法で行います。いずれの場合も、はじめに聞き取りの目的を伝え、聞く側の自己紹介をきちんとしましょう。

②の場合は、人数は多くても7～8名とし、司会と記録係を置いた方が運営がスムーズに行くようです。お話していただく時間は60分前後が一つの目安。聞くだけではなく、聞き手と語り手、聞き手どうしで感想などを語り合う交流の時間も十分に設けるようにしましょう。

(3) 被爆者の話をさえぎらない

被爆者が語り始めたら、なるべく口を挟まずに、とにかく被爆者の語る言葉に耳を傾けてみてください。沈黙が訪れても、それを埋めようとするのではなく、被爆者の沈黙に寄り添って待ってみてください。沈黙の後、思いがけない核心的な話をしてくれることがあります。

(4) 被爆者の証言、受け継ぎ手の思いを記録に残し、それぞれの地域から発信していきましょう

被爆者の証言、受け継ぎ手の思いを記録しましょう。自分たちが聞いた被爆者の証言や受け継ぎ手の思いを、それぞれの地域から世界と未来にむかって発信していきましょう。

(5) プライバシーに配慮を

記録した被爆者の証言の内容は本人に確認してもらいましょう。名前や住所はもちろん、聞きとった内容の「公表」(可否)については、必ず本人の了解を得てください。

また証言の音声や映像・写真などの記録を残す場合は、その目的を語り部や聞き手のみなさんに説明し了解を得てください。

(6) 聞き取りのあとで

被爆の体験はひとりひとり違います。何人かの被爆者から聞き取りが進んだら、グループで聞き取った証言の記録を読むなど、交流の機会をつくりましょう。きっと新しい発見があります。また、聞き取りを通じて感じたことや疑問に思ったことを深め、学ぶ機会を設けましょう。

2. 聞き取り票について

(1) 被爆者の証言、受け継ぎ手の思いを記録し、発信していくために

そのためのツールとして「聞き取り票」を準備しました。聞き取り票はその場で記入する方法だけではなく、聞いたお話をあとで整理しながら記入する方法もあります。聞いた人たちの感想なども必ず記入しましょう。聞き取り票の項目などは、取り組みの実情に合わせて、使いやすいように見直してください。

この聞き取り票は被爆証言を聞くときの大きなポイントとして「被爆したときのこと」、「その後の人生」、「そして今願うこと」の3つの項目と、証言を聞いたみなさんが受け継ぎとして感じたことを記入する1項目で構成されています。すべての項目を埋めなければならない、ということはありません。話していただくきっかけとして、この項目どおり質問していくこともあるでしょうし、自然な流れで話していただいて、あてはまるところに記入していくということもあると思います。

(2) 初めて体験を語る、初めて体験を聞くときの参考に

初めて体験を語る、初めて体験を聞くとときには、お互いに何から話せばいいのかわからない、何を聞いたらいいのかわからない、どういうテーマを糸口に語り合えばいいのかわからない、ということもあると思います。以下に6つの質問項目を例示しますので、参考にしてください。

1. 「あの日」やその直後のことで、今でも忘れられないこと、心残りなことはどんなことですか？

とくに忘れられない光景や、それを見て感じたことを具体的にお聞かせください。

【被爆時、年齢が幼くて当時の記憶がない方(被爆二・三世の方)について】

自分が被爆者(被爆二・三世)であることを、いつ、どのようにして知りましたか。

2. 被爆してから今日までの人生で、とくにあなたの心に残っていることはどんなことですか？

その中で被爆したためにつらかったことがあれば、お聞かせください。

また、そのつらさを抱えながら生きてくるなかで、あなたの支えになったのはどんなことですか？

- (例)・家族を失った ・病気がちになった ・自分の健康がいつも不安
・就職・仕事が思うようにならず ・進学や学業が思うようにならず
・結婚・家庭生活が思うようにならず ・子供や孫の健康・将来が不安
・被爆をかくして生きてきた ・あの日のできごとが心の傷になって残った

3. 被爆者として、今一番困っていること、とくに心にかかっていることはどんなことですか？

(例)・自分の健康 ・自分と家族の生活 ・子や孫の健康 ・原爆で死んだ人たちのこと

・また核兵器が使われるのではないかと ・日本がまた戦争する国になるのではないかと など

※その内容を具体的に

4. あなたのまわりで亡くなられた被爆者について、忘れられないことや言葉があればお聞かせください。

5. いま、被爆者として、アメリカ政府や日本政府にこれだけは訴えたいこと、求めたいと思うことはどんなことですか？

※アメリカ政府に対して

※日本政府に対して

6. いま、被爆者として訴えたいこと、世界と次世代の人々にこれだけは伝えておきたいことをお聞かせください。

(3)みなさんが被爆者から聞き取った証言や受け継ぎ手の思いをお寄せください

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会では、この「聞き取り」でうけとった被爆者一人ひとりの声と受け継ぎ手の声を記録として残すだけでなく、2015年のNPT(核兵器不拡散条約)再検討会議に届けるなど、さまざまなステージにおいて活用し、核兵器廃絶への国際世論を高めることにも反映させていただきます。

ぜひ、みなさんが被爆者から聞き取った証言や受け継ぎ手の思いを事務局までお寄せください。各地の取り組みを継承する会の通信やwebサイトなどで、様々な機会に紹介していきます。

<連絡先>

〒102-0085 東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

電話/FAX03-5216-77 Email: hironaga8689@gmail.com

3. 「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク」について

「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」は、被爆者の想いや願いを受け継ぐ人の輪を広げるために2012年7月15日に設立記念集会として「核時代を生きる」を実行委員会形式で準備し、東京朝日ホールで350名超の参加で開催しました。その後、この実行委員会に参加いただいたみなさんとの懇談会や学習会を重ねながら、今回のつどいを準備してきました。

ヒロシマ・ナガサキを語り、受け継ぐために、被爆者と受け継ぎ手が協力して、被爆者一人ひとりの声に耳を傾け、語り合い、その記録を残しましょう。

この取り組みをさらに広げ大きくするための「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク」にぜひご参加ください。

■ネットワークの性格

被爆者と受け継ぎ手が協力して、被爆者一人ひとりの声に耳を傾け、語り合い、記録に残す、被爆の体験の継承に取り組もうというグループ、個人どなたでも参加できる、各地の取り組みを結ぶゆるやかなネットワークです。

■ネットワークの事務局

「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」事務局

■広報

「継承する会」の通信や web サイトで各地の取り組みを結びます。取り組みの情報や報告を積極的に事務局にお寄せください。

■「被爆体験継承ポータル」

語り部と受け継ぎ手を結ぶための web サイトを開設しました。

「被爆者の話を聞いてみたい」と思っても、なかなかひとりでは始めることは難しいと思います。地域で聞き取りや聞き撮りに取り組んでいるグループがあれば、そこに参加することから始めることができます。

■財政

- 1) 各地での聞き取りを実施にともなう諸費用は取り組むグループ・団体での負担をお願いします。
- 2) 実行委員会の会場費は「継承する会」で負担します。
- 3) この取り組みに関する大きな交流集会など企画する場合の報告者などの交通費は、「継承する会」で負担します。
- 4) 「継承する会」の正会員、賛助会員、賛助団体になって財政を支えてください。

以上